にしこまごうだより

NISHIKOMAGOU DAYORI

No.158

発　行
長野県西駒郷
指定管理者：(社福)長野県社会福祉事業団
長野県駒ヶ根市
下平2901-7

―ひまわり支援課　中庭にて―

新任のごあいさつ

長野県西駒郷 所長　尾野（おの） 成彦（なりひこ）

西駒郷の運営につきましては、日頃より多くの皆様の温かいご支援とご協力をいただき心よりお礼と感謝を申し上げます。

この４月１日付の人事により所長に就任しました尾野成彦と申します。私にとっては身に余る重責ですが、精一杯の努力をしてまいる所存ですので、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、西駒郷では、再整備に向け長野県の機能強化事業が開始されています。今年度は、県全域のセーフティネット機能と障がい特性に応じた適切な支援を実現することを目的に、行動障がいのある方を対象とした施設整備が行われます。施設整備と並行して、専門性あるスタッフの養成のため、複数の職員を先進施設に派遣し学びを深め、所内では外部講師を招き行動障がいのある方への支援力向上を図る研修を重ねてきました。支援環境の整備と支援技術が両輪となり、生きづらさを抱えている方の望む暮らしを実現していくことが「西駒郷の役割」として担っていかなければいけないと考えております。

新型コロナウイルス感染症につきましては、この３年間、西駒郷もイベントの中止や活動の制約を行わざるを得ない状況が続きました。特に利用者・ご家族の皆様には帰省や面会の中止、外出の自粛など多くの制限をお願いすることになり、大変ご不便をお掛けしてきたことに心よりお詫び申し上げます。５月８日以降の５類移行と感染状況が落ち着いてきていることから、感染症対策マニュアルを見直し、感染防止対策は継続しながらも、通常の活動と両立できる体制に変更しています。まだ不安は残る中ではありますが、地元地域の多くの皆様にも足を運んでいただき、利用者の皆さんや職員と交流ができるよう開かれた施設として努力してまいります。

今後とも、関係の皆様のご理解とご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

アフターコロナに向けた暮らしの充実 ～令和５年度 西駒郷重点事業計画～

３年に渡り新型コロナウイルスへの対応のため制限を受ける中で日常生活を過ごしてきました。ようやく今年の５月に新型コロナの分類が５類になり、対応が変わるとともに社会も変わろうとしています。西駒郷においても、今まで制限がかかっていた活動や施設外へ出る機会、地域との交流等に積極的に取組み、より豊かな暮らしを目指します。

また、昨年度に引き続き県の「西駒郷機能強化事業」への協力を行います。本年度は強度行動障害専用エリアが建設されるため、実際の支援体制、支援方法の確立、入居者の人選、前年度に引き続き専門スタッフの育成（外部講師を招いての所内研修、他法人への派遣研修）等を行い、令和６年度当初の開設に向けて準備を進めていきます。（主な重点事業については下表参照）

令和５年度 西駒郷重点事業計画（抜粋）

●提供するサービス

・地域の社会資源を活用し体験や経験をする場面を重ね、障がいの重い方の意思決定支援を充実（施設入所）
・絵画等のアート活動作品の商品化のため、著作権等関係の明確化や対価の支払いを含めて取扱いに関する規定の策定（生活介護）
・専科講師による運動や身体機能の維持向上のため生活リハビリ活動の充実（同上）
・生産活動を含め目的を持った活動への転換を進め利用者ニーズに応える（同上）
・所内の給食用に納入するパン製造の開始（就労Ａ）
・利用者の特性に応じた支援の効率化を考慮し作業班の再編成の実施（就労Ｂ）
・企業見学や体験を行い、一人以上の一般就労を目指す（就労移行）
・第三者委員による利用者との訪問交流の実施（入所支援課も実施）
・客観性と科学性の機能分析に基づくアセスメントシートを整備し、科学的な支援方法の提供およびチーム支援が出来る体制作り（強度行動障がい者支援）

●西駒郷機能強化事業

・強度行動障がい者専用エリアの建設、支援方法・体制の確立
・建物の除却（あすなろ棟、旧ボイラー棟）

●人権擁護及び虐待防止意識の向上

・意思決定支援の実践の場と重ね「現在の暮らしについての希望調査」の実施
・支援する職員同士が「不適切な支援を指摘できるようになる」研修の実施

●人材育成

・強度行動障がい者への支援力向上のため研修の実施（所内・他施設派遣研修）
・支援事例の実践報告会の開催及び実務研究論文集の発刊

●公益的な取り組み、地域貢献活動

・地域の障害のある方がアート活動を行える「風と太陽」の継続、地元の小中学校や他施設でのワークショップの開催、広域的な地域（南信州）での展示会の開催

～ひまわり支援課一体化スタート！～

駒ヶ根支援事業部では、職住分離の考えのもと、生活支援を「ひまわり支援課」「さくら支援課」、日中活動支援を「駒ヶ根日中支援課」で行ってきました。

近年、ひまわり支援課では、利用者の重度化が進み、日常生活支援（移動、食事、排泄）が充分ではないことが課題でした。そこで、ゆったりとした生活リズムを再構築し、個別支援を充実することで幸せな暮らしを目指し、今年度から、「ひまわり支援課」と「駒ヶ根日中支援課」のグループ「すまいる」を一体化し、生活と日中活動を一緒に支える体制となりました。

ひまわり支援課

「ひまわり支援課」では、利用者の方のペースに合わせた日課となり、会話をしながらの食事、歯磨き、髭剃りなど身だしなみを整える時間にゆとりが持てるようになりました。また、個々の持っている力を尊重し、活動の充実を図っています。今まで、ひまわり支援課の棟内で行っていた散髪も、男性は理容室に、女性は美容室に行くことができるようになりました。

駒ヶ根日中支援課

芝生でのびのび活動したり、カラオケを楽しんだりしています。

「駒ヶ根日中支援課」では、さくら支援課・通所者の総勢87名の構成となり、グループ編成が一新されました。

従来の「すてっぷ」、「じゃんぷ」、「なごみ」の他、新しく「はあと」が加わり、計４グループとなりました。

コロナ禍で活動が制限されていた分、今年度は行事や活動、イベント等へ参加し、充実した日中活動を目指していきたいと思います。

わーく宮田

懐かしの機織り作業…

軽作業班と紬縫製班の間の壁を取り払いました。

残念なことに、わーく宮田紬縫製班で行っていた機織り作業は、後継者の不足もあり、稼働が見込めないことから、やむなく終了となりました。かつては、利用者の方の製品が県知事賞を受賞したり、地域の方々にも愛されてきた紬織り製品の数々。長年の歴史ある作業が減ってしまいさみしい限りです。

今年度から、紬縫製班は軽作業班と合併し「軽作業縫製班」となりました。わーく宮田は３班編成となり、「働く」ことを支え、収入増を目指して行きます。

西駒郷の芸術家たちの作品展 vol.22

西駒郷 ほっと展

■駒ヶ根展示

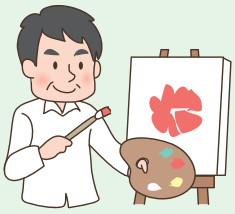
毎年度のアート活動の集大成として開催している西駒郷「ほっと展」。令和４年度で22回目を迎えました。３年前から会場を駒ヶ根市立博物館に移し、規模を大きくして展示しています。前年度は新型コロナ感染症の警戒レベルが上がった影響で会期後半を中止せざるを得ない状況になりましたが、今年は問題なく開催できました。

昨年アート活動は、コロナ体制で思うように活動できませんでしたが、利用者さんの頑張りで魅力的で不思議なエネルギーに満ちた多種多様な作品が並び、大きな反響をいただくことができました。嬉しいことに年々来場者数が増えています。会場にて来場者に声をかけると

「知り合いから勧められて観に来ました。」

「今年も楽しみにしていました。」

という方が多いことに驚きました。また、来場者にご記入いただいたアンケートはなんと１００枚以上。どれも励みになるお言葉ばかりでした。利用者の皆さんのご家族、所の関係者のみならず多くの方に観覧いただけたことを実感できました。



【松井直樹さん追悼コーナー】

残念なことですが、ここ２年ほっと展の主役的存在だった松井直樹さんが年始に逝去されました。そのため今回は松井さんの追悼コーナーを設け、代表作品の展示と個別で制作風景の映像も流しました。今後新しい作品を見ることができないのが残念で仕方ありません。

「ほっと展」西駒郷の芸術家たちの作品展

【会場】駒ヶ根市立博物館

【期間】２０２３年１月21日(土)～２０２３年２月５日(日)

■下條村展示

今回初めての企画で「ほっと展」は下條村のあしたむらんどにて巡回展を行いました。飯田下伊那の３施設（明星学園・七和の里・夢のつばさ）に展示参加していただきました。また各施設の美術担当支援員が一同に会して座談会を行いました。

西駒郷の芸術家たちの作品展「ほっと展」@下條村

【会場】下條村あしたむらんど アートギャラリー

【期間】２０２３年２月14日(火)～26日(日)

ほっと展展示風景（駒ヶ根市立博物館）

■祝入賞

第25回長野県障がい者文化芸術祭にて、西駒郷駒ヶ根日中支援課の竹内一貴さん、宮澤薫さんが絵画部門で入賞しました。おめでとうございます！

第25回（令和4年度）絵画部門
優秀賞「無題」宮澤 薫さん

第25回（令和4年度）絵画部門
最優秀賞「無題」竹内 一貴さん

■タイトル文字

駒ヶ根日中支援課「じゃんぷ」に所属するＩさんが書かれました。最近は大きな紙に文字を書くことに取り組んでおり、特大の筆を使って書いたダイナミックな書道作品がたくさん完成しています。

実践報告会 開催

令和５年２月15日「西駒郷実践報告会」を開催しました。午前の部は「強度行動障害者支援」４件、午後の部は「コンチネンスケア（排泄支援）」１件の実践報告を行いました。

昨年度、西駒郷ではＮＰＯ法人ＫＵＭＯＩ理事長細野氏の講師のもと「強度行動障害者研修」を受講し、根拠のある支援としてアセスメントシートや分析ツールを活用してチーム内で共通理解を図りながら、「知る」→「仮説をたてる」→「支援」→「検証」の流れを繰り返してきました。

実践報告会では、どのチームも試行錯誤したプロセスや得られた成果、今後の課題を整理し報告できたことで、支援力を高めることにつながったのではないかと思います。

また、午前の部は上伊那圏域地域自立支援協議会と共催し、圏域の福祉、行政、医療、教育等に携わる方々約70名の方にオンラインにてご参加いただきました。このことは、強度行動障害の方を地域で支える体制づくりへ踏み出す大きな一歩になったのではないでしょうか。

オンライン参加の皆様からの声

課題行動を、「困った」何とかしなくてはと思いがちだが、それが本人のSOSやコミュニケーションだとわかった。（福祉）

強度行動障害支援の大変さがよく分かった。当事者の生きやすさのために、西駒郷ではチームでとことんアセスメントする体制が素晴らしいと思った。（福祉）

仮説を立てて検証したり、ツールを使って見える化した課題への支援方針を考えたり、当事者に寄り添った支援方法を共有できてよかった。
地域へ発信を続けてほしい。（行政）

実践報告のような支援は、幼少期、在学中から行う必要があると感じた。周囲が知っていることが大事。視覚支援など取り組みには、教員間の共有が課題でもある。（教育）

虐待防止研修 ～怒鳴らないケアミーティング～

西駒郷虐待防止・身体拘束適正化委員会では、人間の感情の仕組みを理解し、特に支援者による虐待に繋がりやすい「怒り」の感情への対処方法を学ぶことを目的に、年間を通じて研修を行いました。研修講師に松本児童家庭支援センター「あいく」の岡田氏を迎え、延べ６回、12名の職員が受講しました。

研修は、本来は親子間で行う「ペアレント・トレーニング」の虐待防止のプログラムをベースに、実際の支援現場を想定し、プログラム内の「子ども」を利用者、「親」を支援者に置き換え、ロールプレイを実施しました。

①利用者に対するコミュニケーションは「わかりやすく・具体的で・短めに」②生活の中の肯定的な出来事は小さなものでも見逃さず賞賛する。③課題的な行動には「〇〇したい気持ちは分かりますが、□□しましょう。」のように共感的表現を用いながら、してほしい行動は何かを伝える。④支援者、利用者の双方が感情的になってしまった場合には、まずは支援者が落ち着くこと。など具体的に学びました。

研修講師：松本児童家庭支援センター「あいく」の岡田氏（写真右側）

受講した職員からは、ロールプレイが実践的でよかった、学んだ内容を活かしてゆとりある支援を行いたいなどの感想をいただきました。

今後とも利用者への虐待防止及び不適切な支援の芽を摘むため、実践的な研修を行っていきます。

ロールプレイでスキル定着

ありがとうございます。

駒ヶ根市民生児童委員協議会様より、雑巾百枚を寄贈していただきました。

福祉サービス第三者評価

令和4年度、まつば支援課（施設入所・生活介護）とわーく宮田（就労B・就労移行）において、福祉サービス第三者評価を受審しました。

総評として、「意思決定支援のプロセス」を評価して頂きました。改善点として、まつば支援課では「代理決定の充実と利用者の生活向上」、わーく宮田では利用者の高齢化や重度化の「迫る危機」への対応について挙げていただきました。

西駒郷では「西駒郷意思決定支援ガイドライン」の制定と具体的な事例の共有を行っています。利用者の皆さんが、日々「自分のことは、自分で決める」ことができるよう支援し、お一人ひとりに合った生活や日中活動の場を提供できるよう努めてまいります。

令和4年度
顧客満足度調査報告

別添のとおり、報告書を配布いたしますのでご覧ください。

＊顧客満足度調査、福祉サービス第三者評価の結果につきましては、西駒郷ホームページにも掲載しております。

ホームページ
http://nagano-swc.com/nishikomago/

第三者委員さんの活動

西駒郷では6名の第三者委員が活動しており、苦情解決委員会において中立公正な立場から助言等をいただく他、利用者の皆さんとの交流や個人面談の機会として「訪問交流」を実施しています。

新型コロナの影響により来訪者が施設内に立ち入ることが厳しい状況が続く中、令和4年度は4回の訪問交流を開催することができました。

えこ宮田、わーく西駒、わーく宮田の各グループに入って一緒に作業をしながら話しかけていただき、利用者の方も進んで作業のやり方を説明したり、個人面談を希望して個別に話を聞いてもらう方もいて、貴重な時間となりました。

西駒郷保護者会から

私たち保護者会は、「利用者が将来にわたり、安心して生活、利用し続けることができる環境の整備」、また「県立施設としての使命を意識して事業を進める」を基本姿勢におき、利用者と西駒郷を支えるべく活動を続けています。

現在は、入所者の保護者83名、通所利用者の保護者28名、合わせて111名で運営しています。しかしながら、入所利用者の減少と、保護者の高齢化が進み、今後の保護者会の存続が難しくなることが懸念されます。一方、通所利用者は増加しています。こうしたことから、西駒郷施設を利用する双方の保護者が支え合う仕組みが必要になってきていることを強く感じています。

利用者は支援員の皆さんの日々の支援により、お陰様で安定した生活を送ることができています。

西駒郷と協力し、利用者、そして支援員の皆さんを支えていく。それが、利用者の生活の場である西駒郷を支え、西駒郷を良い施設にしていくという保護者会の大きな役割だと考えています。

どこの施設でも言える事ですが、保護者会の維持継続が、年々厳しくなっています。しかし、施設と保護者会がともに協力し合い、利用者の生活を支えていくことで、西駒郷がより良い施設になるのではないでしょうか。

保護者会設立の主旨をもう一度、胸深く納めていただき、一層の円滑な運営にご理解・ご協力をお願いします。

西駒郷保護者会へ加入いただき、利用者や西駒郷をともに支えていきましょう。加入の申込みはいつでも可能です。西駒郷の敷地内にあります、ほほえみ事務局、電話番号0265-81-1280（担当　保護者会事務局）まで御連絡下さい。所属の部署の支援員さんに声をかけて頂いてもかまいません。

活動内容

一　西駒郷の行事への参加・協力
環境整備や、にしこま祭への参加。にしこま祭では、例年豚汁を作り、利用者の皆さん、支援員の皆さん、そして地域の方たちに大変ご好評頂いております。

二　利用者の居住環境の充実
施設整備など

三　ボランティア交流費の支出
生活や日中活動でのボランティアの方への謝礼

四　分会ごとの事業
各分会の事業計画による

五　その他
ボランティア活動への参加など

ひまわり支援課　春の行事祭

♪春のコンサート♪

３月27日、ボランティアの「くれはwith栄ちゃん」をお招きし、琴・ピアノ・フルート・歌のコンサートが行われました。昔懐かしの歌、季節の歌、皆さんが良く知っている歌を聴きながら、一緒に拍手をしたり演奏者の皆さんと握手をしたりと、利用者さんの笑顔が飛び交っていました。

そして、誕生日が３月の利用者さんには、お祝いの歌と花をプレゼントして頂くといった嬉しいサプライズもあり、花をもらった利用者の方は照れくさそうな笑顔を浮かべていました。

✿春はすぐそこに✿

３月28日、利用者の皆さんが集まった食堂に突然獅子が登場！獅子の舞に笑顔で歓声を上げる、キョトンとして見つめる、ビックリして逃げるなど、様々な利用者の皆さんの反応に会場は大賑わい。

普段身近ではなかなか見られない獅子舞を楽しんだ後は、皆さんが大好きな「ぬくもり号のラーメン」をお腹いっぱい食べて楽しみました。

午後もお楽しみが盛りだくさん♪アイスクリームの移動販売車が来て、一人ひとりアイスクリームやクレープを購入して食べました。

空を見上げれば、玄関前の桜が既に満開に。桜の下で、利用者の皆さんの笑顔も満開でした。

令和５年度 新規職員 ひとこと

わーく西駒
嶌嵜守夫 支援員
初めてのことばかりですが、笑顔と優しさを忘れずに、仕事をしていきたいと思います。

ひまわり支援課
伊藤香純 支援員
利用者の皆さんが安心して心地よく生活できるように支援方法を学んでいこうと考えています。

わーく宮田
佐々木佳代子 支援員
すみれホームに３年間勤め、気持ち新たにわーく宮田でご一緒させてもらいます。利用者さんと楽しく過ごしながら、学んでいきたいです。

総務課 岡村茉奈 主事
管理棟にいますが、利用者さんとも関わっていけたらいいなと思っております。

駒ケ根日中支援課 北原一秀 支援員
40年程前に西駒郷に勤めておりました。福祉関係や、整形外科やマッサージの会社など、これまでの経験が生かせるよう頑張ります。

企画調整課 堀川文英 相談支援専門員
30年以上前に西駒郷生業部に勤務しておりました。利用者さんが生きがいを感じながら生活できるように、笑顔で勤めていきたいと思っています。

職員動向

令和４年度末退職
・塩沢総夫（所長）・唐木学（総務課）・仲平将・飯島裕介・山本美希（ひまわり支援課）・宮澤友美・伊藤理（駒ヶ根日中支援課）・橋本みよし（わーく西駒）・小河千折（まつば支援課）

転　出
・落合尚子（企画調整課からほっとジョイブ）・保科春陽（駒ヶ根日中支援課からほっと上伊那）・野澤勇貴（総務課から辰野町障がい者就労支援センター・辰野町地域活動支援センター）

令和５年度 新規
・岡村茉奈（総務課）・堀川文英（企画調整課）・伊藤香澄（ひまわり支援課）・北原一秀（駒ヶ根日中支援課）・嶌嵜守夫（わーく西駒）・佐々木佳代子（わーく宮田）

令和５年度 転入
・松川忠章（ほっと上伊那からひまわり支援課）

編集後記

新型コロナも５類になり、急に慌ただしい日々となりました。新たな所長のもと、心機一転、歩みを進めていきたいと思います。